

令和5年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る基礎となる
資質・能力を身に付けた児童を育成する英語教育の推進

1. 現状

改善が進んだ点

R4英語教育実施状況調査

- ①学習到達目標の整備状況
・「CAN-DOリスト」形式による
学習到達目標を設定している
…94.7%
- ・学習到達目標を公表している
…51.4%
- ・達成状況を把握している
…81.7%

②児童の英語による言語活動
時間の割合
授業中50%以上言語活動を
実施…5年92% 6年93.3%

①児童の英語による言語活動
の充実とICTを有効活用した
授業改善の推進

授業中75%以上言語活動を
実施…5年53% 6年54%

50%以上の授業で1人1台
端末等を活用…42%

未だ改善が必要な点

2. 分析

①県内の外国語担当指導主
事のネットワークを構築し、年2
回の県指導主事会議では、県
教育委員会と市町村教育委
員会の両方で成果と課題を共
有するなど連携を一層深め、各
学校への指導や研修会等にお
いて周知している。

②「はばたく群馬の指導プラン
II」の普及、これまでのモデル校
事業の成果の周知により、言
語活動を軸とした授業が展開さ
れている。

①ICT活用促進プロジェクトモ
デル校事業（R2～4）により、
ICTを積極的に活用した授業
が行われている一方で、言語
活動をより活性化するICTの
有効活用や外国語活動・外
国語科の目標に迫る授業改
善に課題がある。

3. 施策・事業

①県指導主事会議の開催（4月、12月）
県内全ての市町村、各教育事務所の外国語担
当指導主事が参加。県の課題、今後の方針等を共
有するとともに、グループ協議を通して各市町村の実
態を把握する。

②①「各教科等授業改善プロジェクト～各教科等の
目標に迫るICTを活用した授業づくり～」モデル校事
業の実施（令和5年度～7年度）

ICTの効果的・効率的な活用を視点とした各教科
等の目標に迫る授業実践・研究を通して、外国語
活動・外国語科の目標に迫る授業改善の推進、全
県に向けた授業公開、教科別授業改善研修会を
行う。

①群馬県総合教育センターとの連携
「小学校外国語活動・英語科研修講座」を実施し、
外国語科におけるICTや1人1台端末を活用した効
果的な授業の在り方について学び、指導力の充実を
図る。

○学校人事課による小・中学校教員の人事交流の
推進、教員採用選考における英語科教員特別選考
の実施により、英語力を有する人材を確保する。

令和5年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進
(CEFR A1レベル相当以上の英語力を持つ生徒の割合60%)

1. 現状

改善が進んだ点

R4 英語教育実施状況調査
①求められる英語力を有する生徒の割合について
R459.1%
[取得42% 相当17.1%]
②生徒の英語による言語活動時間の割合
授業中50%以上言語活動を実施…全学年平均80.2%

未だ改善が必要な点

①「CAN-DO」リスト形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合の改善…77.7%
②生徒の英語による言語活動の充実とICTを有効活用した授業改善
50%以上の授業で1人1台端末等を活用…59.9%
③小中連携の充実
R4 61.8%

2. 分析

①これまでの英語教育に特化したモデル校事業の取組により、小学校で培った素地を中学校においてさらに伸ばしているとともに、市町村教育委員会の取組により、外部試験を積極的に導入している。

②「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく言語活動を軸とした授業が展開されている。

①授業づくりの際の積極的な活用やパフォーマンステストの際の有効活用に課題がある。

②ICT活用促進プロジェクトモデル校事業（R2～4）により、ICTを積極的に活用した授業が行われている。一方で、言語活動がより活性化するICTの有効活用や、教科の目標に迫る授業改善には課題がある。

③感染症拡大防止対策のため、小中交流の機会が減っている。

3. 施策・事業

①②③県指導主事会議の開催（4月、12月）
県内全市町村、各教育事務所の外国語担当指導主事が参加。県の課題、方針を共有するとともに、グループ協議を通して各市町村の実態を把握する。
②③「各教科等授業改善プロジェクト～各教科等の目標に迫るICTを活用した授業づくり～」モデル校事業の実施（令和5年度～7年度）

ICTの効果的・効率的な活用を視点とした各教科等の目標に迫る授業実践・研究を通して、外国語科の目標に迫る授業改善を推進する。全県に向けた授業公開、教科別授業改善研修会を行い、本県が目指す英語授業の在り方を周知する。教育事務所、総合教育センター、市町村教育委員会がチームとなり、指定中学校区を支援する。授業づくり支援を通して、情報交換・共有を行い、小中連携の充実を図る。

②群馬県総合教育センターとの連携
「中学校英語科研修講座」を実施し、学習指導要領の趣旨に基づいた指導方法について学び、指導力の充実を図る。

②チームティーチングの充実、ALTの指導力向上
ALTアドバイザー派遣事業の実施、英語教育フォーラム開催する。

令和5年度 群馬県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実を図り、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒を育成する英語教育の推進(CEFR A2レベル相当以上の英語力を持つ生徒の割合50%)

1. 現状

改善が進んだ点

①「英語教育フォーラム」
・研修で培ったALTの、各校のTT授業における指導改善に生かすことができた。
②「新しい学びのための授業改善事業」
・事業を通じて、ICTを活用した言語活動と評価の改善が見られた。特に評価については、スピーキング・ライティングのパフォーマンステストを両方実施した割合が、前回の45.8%から70%に増加した。

未だ改善が必要な点

①指導と評価の一体化のさらなる充実
・CAN-DOによる各校の取組における目標設定率は100%であるが、達成状況を把握できている率は74.3%に留まっている。

2. 分析

①新課程で目指す授業について、フォーラムを通じて、参加したALTと情報共有できた。
②授業改善推進委員による評価方法の実践研究の成果を共有でき、各校における校内研修の充実が図られた。また、パフォーマンステストに関しても、各校からの提出事例でICTの活用に工夫が見られた。

①授業づくりやパフォーマンステストにおける効果的な活用に課題が見られる。パフォーマンステストの実施状況は改善されているが、内容が学習到達目標の把握に見合ったものとなっているかの検討も必要である。

3. 施策・事業

①「群馬県英語教育フォーラム」(年1回開催)
小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の英語担当教員約300名を対象とする。授業実践発表、講演会、分科会での協議を通して、英語担当教員の指導改善に対する意識を高め、県全体における英語教育の改善を図る。

①「新しい学びのための授業改善事業」
・新学習指導要領で求められている資質・能力を育成するために、各校における授業改善を一層推進するとともに、観点別学習評価等を改善・充実させる。推進委員による研究成果を公開授業等で共有し、各校での取組に生かすことができるようにする。
・CAN-DOの活用を推進するため、各校におけるパフォーマンステストの事例の報告を求め、到達度目標の把握ができるような内容の充実を図る。
②総合教育センターとの連携
「高校英語科研修講座(希望研修)」を実施。学習指導要領で求められる4技能5領域における言語活動の充実に向けた実践的指導力の向上を図る。